

創立150周年を見据えた様々な取り組みを計画



発行
早稲田大学校友会
鹿児島県支部

住所
鹿児島市平之町8-13
平田橋ビル2F
☎099-223-8388

平成25年度校友会 県支部総会

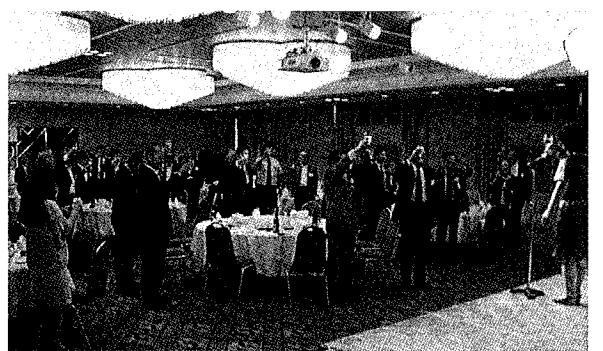
平成25年度早稲田大学校友会鹿児島県支部総会ならびに「早稲田を知る」 in 鹿児島早稲田大学地域交流フォーラムが、昨年7月13日城山観光ホテルで開催された。



会には、福田秋秀校友会代表幹事他大学関係者をはじめ、100人近い校友・在校生父母らが参加した。午後3時から開かれた総会では、川畑孝則県支部長の挨拶の後議事に入り、平成24年度事業報告及び決算報告などの議題が、いずれも満場一致で承認された。大学側を代表して挨拶に立った福田代表幹事からは、150周年に向けての校友会としての活動などが報告された。

引き続き開かれた地域交流フォーラムでは、大学の近況を紹介したDVD「早稲田Vision 150」を観覧した後、紙屋敦之理事・文学学術院教授より「早稲田大学の更なる発展を目指して」と題した講演が行われた。紙屋教授は、海外や地方からの学生を対象とした推薦入学や奨学金制度の充実など、グローバル人材の育成への取り組みについて熱く語った。

続いて中川武理工学術院教授より「文化遺産の再生と社会復興」という演題で講演が行われ、建築士の立



場からピラミッドやアンコールワットなどの遺跡を長年調査研究してきた経験や、東北の被災地復興への取り組みなどをスライドを交えながら紹介し、興味深い話に熱心にメモを取る校友や父母も多く見られた。

引き続き行われた懇親会には、校友会福岡県支部、宮崎県支部からの来賓も初めて参加し、鴨志田祐美常任幹事（S60年法学部卒）の乾杯の後、下園廣二事務局長が司会を務め、様々な早稲田グッズの紹介や販売も行われた。



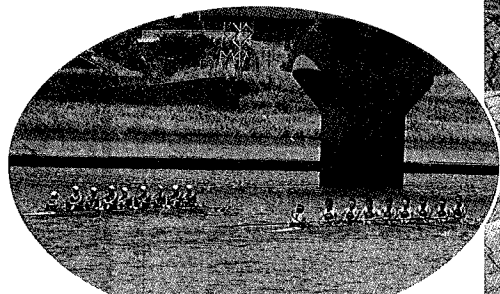
その後、4年ぶりに早慶両大学選手も参加し行われた川内レガッタの勝利報告や新入会員の紹介など、なごやかに会は進み、締めくくりは恒例により、応援部OB岩坪信吉、西園靖彦両幹事の指揮のもと、全員で応援歌「紺碧の空」校歌「都の西北」を父母も加わり全員輪になって斉唱し、津曲貞利副支部長の万歳三唱で総会は無事終了した。

報告 常任幹事 辛島史朗
南日本新聞社（S55年法学部卒）

第22回川内レガッタ

～早慶対校エイト～早慶対校クオドルプル～

隅田川での悔しさを川内で晴らす



梅雨明けの昨年7月7日(日)、第22

回川内レガッタが晴天の下、川内川にて開催された。今回は4年毎に開催している現役学生早慶対校エイトに加えて、現役女子学生早慶対校クオドルプルも初めて開催された。今回のエイトは春の隅田川で敗れており、雪辱を期す意味でも気合が相当入っていた。エイト戦は使用艇を入れ替えての2レースを行い、公平性を保たれるように配慮されていた。結果はエイト2レース、クオドルプルすべて早稲田の勝利となり都の西北が鳴り響いた。ついでに現役レースの前のOB戦も早稲田の9連勝であったことも付け加えておきたい。

また、前日には現役学生を迎えての早慶対校戦前夜祭が開催され、特に今回から現役女子学生も加わったことで華やかな懇親会となった。今回の企画にご尽力された薩摩川内市の方々、ボート協会の方々、また、前夜祭広告協賛にご協力いただいた早慶関係者の皆様に感謝申し上げます。川内レガッタが今後益々盛会となるようお祈り申し上げます。報告〓幹事長

米盛庄一郎 (米盛建設(株)社長・S56年理工学部卒)

早慶レガッタ勝利に沸く

平成26年度県支部新年会

今年で5回目となる校友会鹿児島県支部新年会が、1月25日城山観光ホテルで開催された。

例年とは趣向を変えソファースタイルのピツフェ形式で行われた会には、昨年を上回る70名近い校友が参加し、下園廣一事務局長が司会を務めた。

川畑孝則支部長の挨拶に続き、津曲貞利副支部長の乾杯が始まった懇親会の中で、米盛庄一郎幹事長より、昨年7月に4年ぶりに行われた早慶レガッタでの現役対抗戦ならびにOB戦の勝利報告のほ



か、7月12日に開催される支部総会や、ゴルフコンベンなど主な年間行事が紹介された。

その後シャンソンの生演奏や初参加の校友による自己紹介など、会も和やかに進み、目玉である恒例のお楽しみ抽選会では、森祐介幹事の司会のもと、数々の豪華景品に会場が大いに沸いた。景品をご提供くださった皆様には心よりお礼申し上げます。

最後は、急遽応援部OBの代役を務めることになった、井上剛幹事(H6年政経学部卒)、山下紳市さん(S61年商学部卒)の指揮のもと応援歌「紺碧の空」校歌「都の西北」を全員で斉唱し、無事幕を閉じた。

報告〓常任幹事 辛島史朗 南日本新聞社(S55年法学部卒)